

第1回札幌市まちづくり戦略ビジョン審議会専門部会 (環境、都市空間分野) 会議録

日時：令和3年9月24日（金）18時開会

方法：オンライン開催

※事務局会場：札幌市本庁舎 12階1号・2号・3号会議室

(札幌市中央区北1条西2丁目)

出席：岡本委員*、椎野委員*、高野部会長、牧野委員*、山中委員*（*…オンライン出席）

事務局：浅村政策企画部長、本山企画課長、岩間企画担当係長、滝口企画担当係長

1. 開 会

○事務局（浅村政策企画部長） 開始時間となりましたので、札幌市まちづくり戦略ビジョン審議会の専門部会を開会いたします。

私は、札幌市まちづくり政策局政策企画部長の浅村でございます。

本日は、環境・都市空間分野の審議となります。環境分野におきましては、世界的な課題となっておりますゼロカーボンをはじめとした環境について、市民生活に直結したまちづくりを進めていかなければいけない分野であり、また、都市空間分野については、ほかの分野の施策や目標を支える上で非常に重要な分野だと認識してございます。

今日は2時間となりますが、委員の皆様の見解をいただきながら、よりよいものにしていきたいと考えておりますので、ぜひ闊達なご議論をいただければと思います。

よろしく願いいたします。

○事務局（本山企画課長） 事務局を務めさせていただきます札幌市まちづくり政策局政策企画部企画課長の本山でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の専門部会には、5名の委員にご参加をいただいております。なお、村木委員からは遅参する旨の連絡を受けております。

また、本日は、市役所の関係課もオブザーバーとして事務局と同じ会場から会議に参加しております。参加者はお手元に配付した名簿のとおりです。

なお、本日は、新型コロナウイルス感染症の状況に鑑み、オンラインでの開催とさせていただきます。そのため、皆様にお願いがございます。マイクについては、音声環境向上のため、ご発言のとき以外はミュートの設定にさせていただきますようお願いいたします。また、ご発言される場合は挙手をお願いいたします。進行担当から指名いたしますので、ミュートを解除の上、ご発言いただきますようお願いいたします。

この後の議事進行については、事前の書面審議で選任されました高野部会長にお願いしたいと存じます。

高野部会長、よろしくお願いいたします。

2. 議 事

○高野部会長 皆さん、こんばんは。

今回、環境・都市空間分野の専門部会の進行役を仰せつかることになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

今日の進め方ですが、資料1の環境分野、資料2の都市空間分野の二つに分かれておりました、それぞれの内容について、気になる点、付け加える点等を出していただくことになっております。そうはいいましても、ほかの専門部会の対象分野とも関係するところがたくさんあります。例えば、生活・暮らしにはバリアフリー関係の記述がありますし、安全・安心には災害などについての記述があります。ほかの分野の事柄にも目を通しておられるかもしれませんが、そちらの基本目標についてもご意見や疑問点を出していただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

また、今日は、6時からの開催になってしまい、大変恐縮ですが、8時には終了したいと思っております。環境と都市空間について、それぞれ約1時間で進めてまいりたいと思いますので、ご協力方どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、基本目標ごとの「目指す姿」、取り組むことについて、まず、環境分野からご説明をお願いいたします。

○事務局（本山企画課長） まず、参考資料1の第2次札幌市まちづくり戦略ビジョンの構成イメージをご覧ください。

本資料は前回の審議会でお示したのですが、本日の議事がビジョン編のどこに関わるものかを改めて確認させていただきます。

資料の右側のビジョン編の第4章においては、今後のまちづくりの方向性をより具体的にイメージできるよう、基本目標ごとに「目指す姿」を示すとともに、その実現に向けて、市民・企業・行政が同じ方向で取り組めるよう「私たちが取り組むこと」を明記しています。

本日は、これまでいただいたご意見を踏まえ、環境分野と都市空間分野の「目指す姿」と「私たちが取り組むこと」の事務局案をお示しします。

参考資料2と参考資料3は前回の審議会でお示したのですが、全分野の内容を把握できるよう配付しております。さらに、参考資料4は、都市空間分野と特に関連のあるほかの分野の基本目標、「目指す姿」を抜粋した資料となっており、2ページ以降には分野ごとの専門部会の資料を添付しております。

それでは、資料1の環境分野をご覧ください。

1枚目は、基本目標を導き出した経緯を表しています。前回お示したユニバーサル、ウェルネス、スマートというまちづくりに共通する三つの重要な概念と札幌市のSWOT分析の考察から導いた基本目標を記載しており、前回の審議会でのご意見を踏まえ、基本

目標16と基本目標17を赤字のとおりに修正しています。

基本目標16については、環境だけではなく、経済、社会の要素も入れ、世界に対してもアピールできるようにとのご意見を踏まえ、環境都市からサステナブルシティに変更しています。

また、基本目標17については、身近なみどりに親しむことができ、より市民目線に立った基本目標とすべきとのご意見を踏まえ、身近なみどりを守り、育て、自然と共に暮らすまちに変更しています。

それでは、ページを1枚おめくりください。

基本目標16の「世界に冠たるサステナブルシティ」から説明をさせていただきます。

「目指す姿」の一つ目は、「脱炭素社会の早期実現に向け、更なる省エネ化に加え、北海道・さっぽろ圏の豊富な再生可能エネルギーの導入拡大や、新たなクリーンエネルギーである水素エネルギーの活用、ゼロエミッション自動車の普及が進んでいます。」としています。これは、脱炭素社会の早期実現に向け、さらなる省エネの推進やクリーンエネルギーの普及拡大などの取組を加速させていく姿を表しています。

次に、「目指す姿」の二つ目は、「エネルギー利用に関する世界トップレベルの取組が展開され、高い環境性能と強靭性を兼ね備えた都心が確立されています。」としています。これは、環境やエネルギーに関する先進的な取組を進める都心の姿を表しています。

続いて、「目指す姿」の三つ目は、「ごみの減量・再使用・リサイクルなどが積極的に行われるとともに、近隣地域と資源を補完し支え合う地域循環共生圏の形成を含めた循環型社会が構築されています。」としています。これは、前回の審議会での持続可能なまちは札幌だけで実現できるものではないというご意見を踏まえ、近隣地域と資源を補完し合う地域循環共生圏の観点を盛り込み、循環型社会が構築される姿を表しています。

最後に、「目指す姿」の四つ目は、「誰もが経済・社会とのつながりを理解しながら環境保全や気候変動対策などに取り組んでおり、ライフスタイルの変革や技術革新が進んでいます。」としています。これは、誰もが、環境のみならず、経済、社会のつながりを理解し、SDGsを意識し、行動している姿を表しています。

これらの「目指す姿」を実現する上で必要な取組は、資料の右上の「私たちが取り組むこと」に記載しております。現行のビジョンと比べて、新しいものには【新規】、レベルアップするものには【レベ】と表記しています。

続いて、ページを1枚おめくりください。

基本目標17の「身近なみどりを守り、育て、自然と共に暮らすまち」についてです。

まず、「目指す姿」の一つ目は、「森林、農地、公園や河川などの保全・創出・整備により、豊かなみどりのあるまちのなかで、人々が健康的で幸福感の高い生活を送っています。」としています。これは、みどりの保全・創出・整備により、豊かなみどりが形成され、札幌の自然の豊かさを享受する市民の姿を表しています。

次に、「目指す姿」の二つ目は、「森林や公園などの身近なみどりが自然との触れ合い

や人々の交流の場に加え、防災、経済活動、水源涵養、二酸化炭素吸収など多面的な機能を発揮し、都市の魅力や強靱性を高めています。」としています。これは、前回の審議会でご意見がありましたみどりの利活用の視点や、防災、減災につながるグリーンインフラなど、みどりの多様な機能が発揮されている姿を表しています。

最後に、「目指す姿」の三つ目は、「生物多様性が広く理解され、地域本来の生態系が維持されたなかで自然と人とが共生しています。」としています。これは、生物多様性の理解や保全が進み、自然と人とが共生する姿を表しています。

これらの「目指す姿」を実現する上で必要な取組は、資料の右上の「私たちが取り組むこと」に記載しています。なお、「目指す姿」の1と2は、共通する要素が多いため、一括して記載しております。

私からの説明は以上でございます。

○高野部会長 環境分野ということですが、基本目標16は「世界に冠たるサステナブルシティ」、基本目標17は「身近なみどりを守り、育て、自然と共に暮らすまち」となっております。また、それぞれの「目指す姿」に対して、市民・企業、行政に分け、「私たちが取り組むこと」が記されておりますが、これを戦略の中に載せていくこととなりますので、いろいろな点について追加や修正等をしていかなくてなりません。

どちらの目標でも結構ですので、ただいまのご説明についてご質問やご意見をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○山中委員 おかげさまで、基本目標をサステナブルシティにさせていただきました。また、「目指す姿」も「北海道・さっぽろ圏」という、札幌市だけではなく、広い地域を意識されたということですね。事務局からの説明にありましたように、近隣地域と資源を補完し合うとしてくださったのはとてもうれしく思います。

札幌市が179市町村のうちの一つとはいえ、人口的にも北海道の中でも大きいわけですし、そういう責任感が入ったのはとてもいいと思っています。賢いユーザーとこれまで発言してきましたけれども、そういう視点が入ったことが、いいなと思いました。

ただ、一つ気になる点があります。これらを実現するための主体は誰かです。

子ども・若者のほうに環境教育のような視点が入っているのですけれども、これを実現させるために市民がそういう意識を持っていることも重要ですよ。サステナブルシティにするためには、市民がSDGsやゼロカーボンという話をどれだけ学んでいるか、あるいは、そういうことを知っている人が住んでいるのだということが大切で、大人の環境教育と言ってもいいかもしれません。そのようなものが文章に入るほうがいいように思います。

つまり、若い子どもたちだけではなく、住民みんながこのまちを考えていくということです。これは次の都市計画の都市空間のほうでも同じですけれども、どこかに住民みんなが考えているというような文言が入っていますか。もし入っていないのであれば、この辺りで見えるよう、そうした文言を入れていただくといいかと思います。

○高野部会長 端的に言うと、大人の環境教育といいますか、子ども以外のものが基本目標16と基本目標17以外にあればいいのですけれども、いかがでしょうか。

○事務局（本山企画課長） 基本目標16の「目指す姿」の4番目の「誰もが経済・社会とのつながりを理解しながら環境保全や気候変動対策などに取り組んでおり」というところで含みを持たせていたのではあるのですが、今のところ、具体的に「大人の」といった記載はありません。

○高野部会長 資料1の2ページの表の4番の市民・企業などと行政の一番上にSDGsを意識した環境学習と書いてありますが、このことですか。

○事務局（本山企画課長） それを指しています。

○高野部会長 そういうことだそうですが、山中委員、いかがですか。

○山中委員 「多世代」や「世代を超えて」みたいな言葉が入るといいのかもしれませんがね。

○高野部会長 ぜひ、そういう言葉を入れていただければと思います。

ほかにいかがですか。

○椎野委員 基本目標16と基本目標17のうち、基本目標16のほうは地球規模の大きなスケールの話で、基本目標17のほうは、私たちが今暮らしている札幌のまち、身近な場所ということで、一見、スケールがかなり違うように見えます。基本目標16のほうは世界規模で考える視点であるのに対し、基本目標17のほうは、「身近な」という言葉を入れていただいたように、私たちがどう行動するかということで、非常に分かりやすいかと思います。

ふだん生活していく中での私たちの行動やライフスタイルを工夫することで、大きくは基本目標16の世界規模での地球環境の保全や気候変動の抑制などに貢献できるということで、教育上も非常に好ましい構成になっているのかなという感想を持ちました。

そこで、基本目標17についてです。

「目指す姿」の目標も大変分かりやすく整理いただいております、よろしいかなと思いますが、一つだけ申し上げます。2番目の「森林や公園などの身近なみどりが自然との触れ合いや人々の交流の場に加え、防災、経済活動、水源涵養、二酸化炭素吸収など多面的な機能を発揮し、都市の魅力や強靱性を高めています。」というところですが、2行目に書いてあることは割と森林や自然環境の要素が関わっているので、強靱性というキーワードについてはもう少しいい言葉がないかなと考えています。都市だから強靱性という言葉にしていると思うのですけれども、例えば、強靱性をレジリエンスという文言に変えていただくというやり方もあるかなと思いました。

つまり、回復力や再生力など、自然が持つ自分で自分を回復するようなことで、グリーンインフラというキーワードの一つの特徴かと思いますが、生物の働きや生物の特性といいますか、それにより都市が美しく、また、災害に強く、環境に貢献したり、人々の健康を増進したりということに寄与するという意味から、ここはやはりレジリエンスと

いう言葉を使っていた方がいいのかなと私は思いましたので、ご検討をいただければと思います。

ほかのところはおおむね分かりやすくまとめていただいていたので、以前よりよい内容になったのではないかという印象を持っています。

○高野部会長 今のご発言に山中委員も大きくなずいておられましたね。自己回復性みたいなものを付け加える意味においてはレジリエンスという言葉が非常にいいのではないかということです。

ほかにかがですか。

○岡本委員 資料の整理をしていただいて、非常に分かりやすくなり、よかったなと僕も思っています。ただ、前回もお話しさせていただいたのですが、「私たちが取り組むこと」の表の構成です。今は、市民・企業などなのか、行政なのかを判別しやすいよう、分かりやすく書いてくださっていると思うのですが、お互いに対応している内容がありますね。

逆に、市民・企業などのところに書いていて、行政のところに書いていないもの、行政のところに書いていて、市民・企業などのところに書いていないというものもあります。今後、そうしたものが出てくるのかは分かりませんが、取り組みの対応がきちんと整理され、両方で協力していくのだというニュアンスがきちんと伝わるようにしていただければより理解が進むかなと思いますし、行政にお任せではなく、我々もやらなければいけないのですよということが伝わることも大事だと思いますので、その点はより伝わりやすくしていただきたいなと思いました。

加えて、細かい話で大変恐縮ですけれども、市民・企業などのところで「(市・企)」となっているところがありますよね。この「市」というのは、市民ではなく、市役所の市なのかなと思ってしまったりするので、外に出すときはもう少し表現を工夫したほうがいいかなと思いました。

加えて、基本目標16のサステナブルシティのほうです。

先ほど椎野委員から大きな視点というお話がありましたが、そもそも、エネルギーを多く使用しないようにしていくことと考えると、歩いて暮らせるまちにしていましょうということがあるほか、今は自転車で快適にという取組もなされていますよね。歩行環境がより魅力的になることから、エネルギーの消費を減らし、健康を増進させるというお話が前回あったかと思うのですが、交通機関をクリーンにするだけではなく、暮らしの仕方もクリーンにつなげていく切り口も載せられないかなと思って見ていました。

もう1点だけ触れたいのですが、行政の2番目にエネルギーネットワークの整備のことや建物の更新、地域熱供給ということが書いていますよね。札幌市、特に中心部になりますが、地下の利用が促されることが札幌の持続可能性を高めていく重要な要素になると僕は思っています。エネルギーネットワークの整備においては地面を掘るわけですが、そのためだけではなく、人々の動線を確認する、あるいは、先ほどの歩行の話と絡むのですが、

地下の使い方として、エネルギーをただ届けばよいのではなく、歩行環境の形成にも寄与する展開についても触れていただくと望ましいのではないかなと思いました。

○高野部会長 まず、1点目は、一般的な話として、市民・企業など、行政という「私たちが取り組むこと」について、ただ上から書いているのか、それとも、右と左で対応関係になっているのかということです。やはり、ここは対応関係になっていたほうが分かりやすいということだと思うので、対応関係になるような仕掛けとしたほうがいいのではないかとご提案ですが、これについてはいかがですか。

○事務局（本山企画課長） 今のご指摘とおり、「目指す姿」のほうからの対応関係も非常に重要だと考えております。市民・企業など、行政がそれぞれどう対応し、協力し合っていく姿を見せていくのかの表現についてはこれから検討させていただければと思っております。

○高野部会長 あと、「市」と書いてあるものについてはいかがでしょうか。

○事務局（本山企画課長） それは本編で工夫したいと思います。

○高野部会長 また、歩いて暮らせるまちづくりということについてです。単に自動車から公共交通機関へのシフトではなく、地下の利用についても表現できないかというお話でしたが、いかがですか。

○事務局（本山企画課長） ほかの分野に大きく関わっているもので、同様の記載があるようなケースもあるので、どの分野でどう整理していくかは整理したいと考えております。

○高野部会長 いろいろまたがる場所でもありますよね。

○事務局（本山企画課長） 今、個別の分野を見ており、全体が見えないようなところもありますので、見え方については工夫したいと思っています。

○高野部会長 岡本委員、いかがですか。

○岡本委員 おっしゃっているとおり、この話は全体にかかってくるものなので、どこで話せばいいかなと思っていたのですが、ちょいちょい出していないとまずいかなと思って触れました。大きな話でちゃんとすくい取ってもらえるようにしていただければうれしいです。

○高野部会長 忘れることがないように、いろいろな場面で意見を出していただくことも非常に重要だと思いますので、引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、牧野委員、お願ひします。

○牧野委員 基本目標17の「目指す姿」の1に「森林、農地、公園や河川などの保全・創出・整備により、豊かなみどりのあるまちのなかで、人々が健康的で幸福感の高い生活を送っています。」とあり、これはとてもイメージできました。ただ、「人々」という漠然とした表現についてです。人々といってもいろいろな人がいますよね。世代を超えてとか、年齢や性別も関係なくとか、また、健康な方のほかに、障がいなど、ハンデのある人たちがいると思ひます。

また、現状、札幌市には、公園や河川など、いろいろなところがありますが、ハンデがあるとなかなか行けないところもあります。皆さんはそこで楽しめても我慢しなければいけないというところもまだまだたくさんありますので、「人々が健康的で」という文言は「全ての人々が」という言葉にしていただければありがたいなと思います。

あとはとても分かりやすいと思いますし、前回の委員会での発言も反映されており、よろしいと思います。

○高野部会長 基本目標17の「目指す姿」の1の「人々が」に「全ての」という言葉を加えていただきたいということでした。ただ、今のご発言を聞いていて思ったのですが、次に「健康的で」という修飾語がついているのですね。これはなかなか難しい表現といたしますか、いろいろな意味で捉えられますよね。病気になっておられる方々など、健康的だと言うには厳しいと思われてしまわないかという感じもするのですけれども、牧野委員、いかがですか。

○牧野委員 高野部会長がおっしゃることはもっともだと思います。ただ、札幌市が目指す姿といたしますか、少しでも病気になる人が少なくなるよう、健康で長く暮らしていけるようにという目標のような気もしています。細かく考え、健康ではない人とはと捉える方もいらっしゃると思うのですが、目標としてはこれでよろしいかなと私は思います。

○高野部会長 今のご発言について事務局から何かございますか。

○事務局（本山企画課長） 今のご指摘のとおり、今回、まちづくりに共通する重要概念として、ユニバーサル、共生というキーワードがありますが、どういう表現が適切かについてはこちらで検討したいと思っています。

○高野部会長 ほかにいかがですか。

○山中委員 岡本委員の発言から、「私たちが取り組むこと」が、「市民・企業など」と「行政」という2列になっているということに気づきました。市民・企業・行政という垣根を越えて、つまりステークホルダーのセクターを越えて、目指す姿に向けて取り組んでいかないとまちがつかれないのだということをごどこかに明記すべきだろうと思います。

アイデアですが、SDGsの目標の17にパートナーシップとありますよね。小さなコミュニティのまちづくりでも市民と行政が考えたり企業が考えたりということです。今あるような形で書いてしまうと、どうしても市民・企業は市民・企業、行政は行政と読めてしまうので、その工夫が必要だと思います。

○高野部会長 市民・企業・行政という垣根を越えてということですね。これはかなり重要な事柄になりますので、ここで書くべきなのか、あるいは、別の場所ということもあるのだと思うのですが、いかがですか。

○事務局（本山企画課長） 環境分野に限らず、共通して言える課題だと思っていますので、どこで表現していくかはこちらで検討したいと思っています。

○高野部会長 ほかにいかがですか。

○椎野委員 感想みたいになってしまうかもしれないのですが、先ほど岡本委員がおし

やっていたウォーカブルシティ、歩いて暮らせるということが、ひいてはエネルギー消費の抑制や地球環境の保全に大きくつながっていくということについてです。

昨今、特に札幌の中心部では、コロナ禍ということもあるのですが、自転車で移動する方が増えていたり、身近な場所で散歩をする方も増えているかなという印象を持っています。そこで、基本目標17の一番下のところです。

前回の審議会でも私からお話をさせていただきましたが、歩きたくなるまちといいますか、魅力が高まったことによってあそこへ行ってみたいとなったり、身近な場所で行動を起こし、それが継続されることで、今度は散歩をする人の健康の増進に寄与するという関係性もあるかなと思いました。

これは、いろいろな分野の接続性といいますか、SDGsもそうでした、その辺を整理するのは大変難しいと思うのですが、やはり、いろいろなものにつながっているのだということがうまく表現できるといいかなと思いました。

○高野部会長 これは次のトピックになりますけれども、基本目標18の「コンパクトで人にやさしい快適なまち」の「目指す姿」の4でそういうことが読み取れますね。どちらにするかは難しいところだと思うのですが、歩きたくなるまちということについては先ほどの岡本委員のご発言をより助長するものであり、重要だと思いますが、事務局はいかがですか。

○事務局（本山企画課長） ご指摘のとおりで、正直、我々も悩んでいるところでして、環境分野や都市空間分野など、分野ごとにやっていくとうまく表現できないところもあります。一旦は各分野に整理し、どこかで書いてはいるのですが、最終的な見せ方としてはどこから見てもそういうことが読み取れるのが理想だと考えておりますので、今後検討していきたいと考えております。

○高野部会長 ちゃんと議事録に残していただければと思います。最終的にそういうものがどこに書かれているかをチェックしたいと思います。

私からも、1点、山中委員に教えていただきたいのですが、特に基本目標16についてです。

こ先ほどもご発言がありましたように、地球環境的規模の問題が割と大きく出ているわけでした、こういうときに市民や企業が一生懸命取り組むのだけれども、地球環境的規模の問題となるとどうなのかということです。国のエネルギー政策なども非常に大きく関わってきますし、地球的規模ですから、当然、ほかの国のパフォーマンスにもすごく関わってくるわけです。札幌市民にこれこれということで努力義務を課すのだけれども、一方では、国の在り方やほかの国の対応が逆の方向に進んでしまうと、市民の努力が水の泡になってしまうということがあって、大変難しいのかなと思っています。

そうしたことを踏まえ、どういう表現ぶりにしたらよいかなど、何かアドバイス等はございますか。

○山中委員 大変難しいですね。でも、本当はSWOT分析のところで書くべきなのです

よ。つまり、脅威のTのところ、札幌市だけではできないということを明記したほうが良いということです。ただ、SWOT分析の結果が公表されるかどうかは分かりませんが、そこで意識されているということは明記しておくべきかな、と思いました。

また、札幌市の特徴を言うと、確かに、雪とその影響ということもありますが、先ほども言いました「賢いユーザー」という視点がとても重要です。私たちが何を買うかという視点です。道内産品も、日本国内産もありますし、発展途上国から何を買うかということとも関係しているのですね。

ですから、地球環境的規模の問題の視点を入れておくとするならば、やはり、「世界の動きの情報をいち早くキャッチし、それをリードしていく」ような言い方になるのだらうと思います。

○高野部会長 大変いいアドバイスをいただきました。札幌市民が、最先端のといいますが、いろいろな意味での幅広、多様性、共生の中でそういうライフスタイルを先んじて取り入れていくということを書くことが今おっしゃられたことの一つの解決の方向を見せることができるのですね。

○山中委員 付け加えると、今言ったのですけれども、世界の情勢を踏まえて柔軟に対応するということですね。SWOTの脅威(T)に対する柔軟さです。それは、実は、国際的に使われるレジリエンスということですので、その視点を入れれば良いのだと思います。世界の動きをいち早くキャッチし、リーダーとして行動する人たちということですね。

だから、「世界の最先端になる」というよりは、「世界の最先端をよく知っている」ということになりですね。つまり、自分たちの周辺状況をちゃんと見ています、世界を見て、メガシティの住人として行動しますということだと思います。

○高野部会長 非常に重要なアドバイスだと思います。どういう形かは分かりませんが、ぜひ生かしていただければと思いますので、よろしくお願いします。

○事務局（本山企画課長） 基本目標16の「目指す姿」の2では、都心の話とはなりませんけれども、「世界トップレベルの取組が展開され」という表現があります。今のご指摘にありましたとおり、まさに世界の情勢や動きを踏まえ、そういう取組をするという意味もあります。

また、「目指す姿」の4では、「ライフスタイルの変革や技術革新が進んでいます。」という表現もありまして、そういうことも意識した表現としています。

今のことをより分かりやすく伝えるような表現については検討してまいりたいと思っております。

○高野部会長 それから、今のご発言にもありましたSWOT分析のThreadについてですが、これは前段のところを取り上げるのでしょうか。

○事務局（本山企画課長） どういう扱いにするかはまだ決めていないのですけれども、基本目標を導き出すためのSWOT分析であり、非常に大きく関連してくるのは間違いありません。どういう整理をしていくかについて、こちらで考えさせていただければと思います。

ます。

○高野部会長 村木委員は、環境モデル都市の下川町に行っておられて、札幌に戻る途中で渋滞に巻き込まれているようで、まだ戻れていないという状況ですので、ご意見を頂戴することは無理なようですが、環境についてはいかがですか。

（「なし」と発言する者あり）

○高野部会長 もし何かありましたら、後ほど都市空間分野のところでご発言をいただければと思います。

続いて、都市空間分野についてのご説明をお願いします。

○事務局（本山企画課長） それでは、資料2の都市空間分野をご覧ください。

都市空間分野については、基本目標に関する資料に加え、最終ページに将来の都市空間イメージ図と都市空間の種別の定義を記載しています。

資料のページが前後して大変恐縮ですが、まず、資料2の最終ページをご覧ください。

資料の左側にあります将来の都市空間イメージ図については、視覚的に札幌の都市空間イメージを図示したものとなっています。また、資料の右側にあります都市空間の種別の定義については、都心や拠点、住宅市街地などの定義を記載しています。

それでは、1ページにお戻りください。

こちらは、先ほどの環境分野と同様に、基本目標を導き出した経緯を表す資料となっています。前回の審議会でお示した基本目標案からの変更点はございません。

それでは、ページを1枚おめくりください。

基本目標18の「コンパクトで人にやさしい快適なまち」から順に説明させていただきます。

まず、「目指す姿」の一つ目は、「都市空間の種別に応じた土地利用と良好な景観の形成により、多様なライフスタイルを実現できる魅力あるまちになっています」としています。これは、都心、拠点、住宅市街地などの都市空間の種別に応じて適切な土地利用を図っていくとともに、前回の審議会での景観に関するご意見を踏まえ、良好な景観を形成していくことによって、札幌らしい多様なスタイルが実現でき、魅力あるまちになっていることを表しています。

次に、「目指す姿」の二つ目は、「『地域交流拠点』では、商業・サービス機能や行政機能など多様な都市機能の集積が進み、快適な交流・滞留空間や歩きたくなる空間が形成され、様々な活動が行われています」としています。これは、現在、新さっぽろや琴似、真駒内など、17か所の地域交流拠点を位置づけていますが、これらの拠点では、日常生活を支える多様な都市機能の集積が進むだけでなく、快適で歩きたくなる空間が形成され、市民活動をはじめ、様々な活動が行われている姿を表しています。

続いて、「目指す姿」の三つ目は、「『複合型高度利用市街地』では、集合型の居住機能と多様な生活利便機能が集積し、『一般住宅地』では、多様な居住機能と生活利便機能が調和を保って立地し、『郊外住宅地』では、地域特性に応じた生活利便機能が確保され

たゆとりある良好な住環境が維持されています」としています。これは、複合型高度利用市街地、一般住宅地、郊外住宅地において、住まいの多様性が確保されている姿を表しています。

最後に、「目指す姿」の四つ目は、「快適で利用しやすく、環境にもやさしい移動環境・手段が整備されることにより、公共交通を軸とした持続可能でシームレスな交通ネットワークが確立されています」としています。これは、公共交通を軸とした交通ネットワークを確立するとともに、先端技術なども活用しながら快適で円滑な移動が可能となっている姿を表しています。

これらの「目指す姿」を実現する上で必要な取組は、資料の右上の「私たちが取り組むこと」に記載しています。なお、「目指す姿」の1から3は、共通の要素が多いため、一括して記載しています。

続いて、ページを1枚おめくりください。

基本目標19の「世界を引きつける魅力と活力あふれるまち」についてです。

まず、「目指す姿」の一つ目は、「『都心』では、民間投資と共鳴した新しい時代にふさわしい高次な都市機能の集積が進んでいます。また、快適な交流・滞留空間やみどりの創出、移動環境の充実により、魅力的でうるおいのある歩きたくなる都心が形成されるとともに、データや先端技術の活用などにより、イノベーションが創出され、新しい価値が生まれ続けています」としています。これは、都心において、高次な都市機能の集積が進むだけでなく、魅力的で潤いのある歩きたくなる空間が形成されることにより、多様な交流やイノベーションが創出され、新しい価値が生まれ続けている姿を表しています。

次に、「目指す姿」の二つ目は、「『高次機能交流拠点』では、国際的・広域的な観点を持った産業や観光、スポーツ、文化芸術などの都市機能の高度化と集積が進み、国内外問わず、多くのヒト・モノ・投資・情報を呼び込んでいます」としています。これは、現在、北海道大学周辺や定山溪、札幌ドーム周辺など、12か所の高次機能交流拠点を位置づけていますが、これらの拠点ごとの特性に応じた都市機能の高度化と集積が進み、国内外から多くの資源が集まっている姿を表しています。

続いて、「目指す姿」の三つ目は、「『工業地・流通業務地』では、操業環境の保全や土地利用の再編、低未利用地等の適切な活用などにより、老朽化した施設の更新や機能の高度化・複合化が進んでいます」としています。これは、適切な土地利用計画制度の運用や、更新を希望する事業者に対して低未利用地をマッチングするなどして、事業者が市内で施設更新などに対応できている姿を表しています。

最後に、「目指す姿」の四つ目は、「広域交通ネットワークの充実・強化により、道内の都市や観光地をはじめ、国内外の地域とのつながりが深まり、新たな交流が促進され、さっぽろ圏はもとより北海道全体の社会経済活動が活発化しています」としています。これは、北海道新幹線の札幌延伸や丘珠空港の機能強化、都心アクセス道路の整備など、広域交通ネットワークの充実により、札幌だけでなく、北海道全体の社会経済活動に寄与し

ている姿を表しています。

これらの「目指す姿」を実現する上で必要な取組は、資料の右上の「私たちが取り組むこと」に記載しています。なお、「目指す姿」の1と2は、共通する要素が多いため、一括して記載しています。

続いて、ページを1枚おめくりください。

基本目標20の「都市基盤を適切に維持・更新し、最大限利活用するまち」についてです。

まず、「目指す姿」の一つ目は、「道路、交通施設、上下水道、公園、廃棄物処理施設等のインフラや、区役所、学校、住宅等の建築物は、老朽化のほか、必要な機能や人口動態、地域の特性等も踏まえ、計画的な維持・更新・再配置・複合化が行われています。また、ICTや先端技術の活用により、効率的な維持・保全や施設規模の適正化等が行われています」としています。これは、官民のインフラや建築物が計画的に維持・更新されていることに加え、ICTや先端技術を活用しながら、効率的な維持・保全や施設規模の適正化が図られている姿を表しています。

次に、「目指す姿」の二つ目は、「公共施設では、整備や運営・維持管理に関する積極的な官民連携により、市民ニーズ・社会経済情勢を捉えた多様で柔軟なサービスの提供が行われています」としています。これは、公共施設の整備や運営・維持管理を行う際には、PPP/PFIなど、官民連携による取組を積極的に行い、多様で柔軟なサービスが提供されている姿を表しています。

最後に、「目指す姿」の三つ目は、「道路や広場などの都市基盤等の空間が有効に利活用され、まちにゆとりやにぎわいが生まれています」としています。これは、前回のご意見を踏まえ、官民の都市基盤や未利用地などの空間が利活用され、まちにゆとりやにぎわいが生まれている姿を表しています。

これらの「目指す姿」を実現する上で必要な取組は、資料の右上の「私たちが取り組むこと」に記載しています。なお、「目指す姿」の1と2は、共通している要素が多いため、一括して記載しています。

私からの説明は以上でございます。

○高野部会長 都市空間分野ということで、いろいろな内容が書き込まれていますが、いかがでしょうか。

○牧野委員 たくさんあるのですけれども、まず、基本目標の20のところに「都市基盤を適切に維持・更新し、最大限利活用するまち」についてです。

私は、札幌市に住んでいます。健康な方にはとても住みやすい形にどんどんなっていると思うのですけれども、例えば、地下歩行空間から直結という案内がよくありますよね。しかし、直結で行けると思っていると、段差や階段があって、車椅子利用者にとっては直結ではないということがあります。また、テレビ塔です。あそこは民営ですけれども、札幌の観光場所といえばテレビ塔という発想があります。でも、車椅子だと階段を上がらな

ければいけないので、直結ではないのです。雨や雪が降っているときも、外に一度出なくてはいけません。

このように、細かいことを言ったら切りがないぐらいたくさんありまして、健全な人には優しいまちになりつつありますが、最大限利活用してもらうためには、多様な人たちにも対応したまちづくりといえますか、細かい部分にも配慮していただきたいということがあります。

ここを見ますと、バリアフリー化という言葉は入っていますが、インクルージョンやユニバーサルデザインについてはありません。また、ハード面が幾ら整っても使う人のモラルやマナーによってバリアになっているところもいっぱいあるのです。

今回、国土交通省のバリアフリー新法が改正になり、心のバリアフリーという文言が盛り込まれましたので、どこかに心のバリアフリーという言葉を入れていただきたいと思います。先ほどは意識のお話が出ていましたけれども、それはまちづくりにはすごく大切ではないかと思うので、どこかにそういう意識を感じられるものがあるといいなと思います。

具体的にここをどうということはお話しできず、申し訳ないのですけれども、そんなことを感じました。

○高野部会長 大変重要なお指摘だと思います。

これは、生活・暮らし分野ですね。資料4の後ろに基本目標5の「生活しやすく住みよいまち」がついていまして、「目指す姿」の2には「バリアフリー化やユニバーサルデザインへの理解と導入」とあります。でも、今ご指摘をいただいたように、都市空間のところでも、例えば、基本目標18の「快適で利用しやすく、環境にもやさしい移動環境」というところに誰にとって快適で利用しやすいのかということもここでも表現すべきではないかと感じるのですが、事務局はいかがですか。

○事務局（本山企画課長） 今、高野部会長からもご説明があったのですけれども、バリアフリーに関しては生活・暮らしで整理をさせていただいておりまして、都市空間の分野のところでは読みづらくなっていたと思います。

これも先ほどと共通する話になってしまうのですけれども、都市空間の分野を見て、生活・暮らしのところにこういう記述があると分かるように、また、都市空間のところどう表現するかはこれから整理したいと思っております。

また、心のバリアフリーについてです。

今回、まちづくりの重要概念ということで、ユニバーサルという一つの大きな概念を打ち出しているのですけれども、これは、ハードのバリアフリーだけではなく、ソフトの心のバリアフリーの点についても触れていく考えがあります。ただ、都市空間の分野でどう表現できるかは検討してまいりたいと思います。

○高野部会長 牧野委員、今の発言に対して何かありますか。

○牧野委員 難しく、どういうふうにお伝えしていいかは分からないのですけれども、ユニバーサルデザイン、バリアフリー化、心のバリアフリーというものは全部にくっついて

くるのです。その言葉を一つ一つに入れていくのは難しいかと思うのですが、やはり、意識として全てに共通しているということが分かるよう、ところどころに強調して入っているとよろしいのかなと感じました。

○高野部会長 ほかにございませんか。

それでは、岡本委員、お願いいたします。

○岡本委員 幾つかあるのですが、まず、常に気になっているのが札幌の弱みというか、地上と地下の連携があまり取れていないということについてです。もちろん、チ・カ・ホなど、ほかの都市から比べればかなりチャレンジングで、すごく魅力的な空間もできているのですが、今後を見据えた全体を俯瞰した地上と地下の在り方が特に示されていないといいますか、マスタープラン的なものがない状態で、民間の力も借りながらつくっていったほうがいいよねという話になっているのですね。でも、そうではなく、地上と地下を俯瞰したマスタープランみたいなものをきちんと持ち、都市のつくり込みが進んでいくのだということ表現していただきたいと思っています。

そして、地上と地下のマスタープランを立てるには、先ほど牧野委員からもお話がありましたけれども、前回に重ねて僕からはインクルーシブというキーワードを挙げさせていただきます。これは、計画や設計、あるいは、空間のデザインの段階から多様な人たちに関わりを持ってもらって計画を進め、設計までちゃんと参加し続けてもらうという取組として、今、建築の分野では注目されていまして、皆さんもご存じかもしれないですが、新国立競技場でもそういう取り組みがありました。

ユニバーサルやバリアフリーについては、計画する人の視点で、こういう基準があるから、それを守ればバリアフリーでしょう、こういうことに気遣えばユニバーサルでしょうという、どちらかという上から目線みたいな感じになりがちだと思うのです。けれども、そうではなく、インクルーシブな環境の中で使う人たちにも設計、デザインに入ってきてもらうということをもう少し強調していただきたいなと思っています。

具体的に言うと、基本目標18と基本目標19の計画策定に関わってもらうところでもう少し踏み込んで、さらに、基本目標20には効率的な維持・保全・更新と書いてありますけれども、こういう場面にも実際に利用者が入ってこられるようなインクルーシブなプロセスを持ち込んでいくということを明記していただきたいと思います。

もう一つです。

基本目標19には「世界を引きつける」というすごく重要な切り口が書いてあるのですが、ブレークダウンしていくといいますか、「目指す姿」から「私たちが取り組むこと」に落ちていく中で、どれが世界を引きつけるのかがよく分からなくなっているような気がします。新しいデータを解析し、まちが使いやすくなれば、それは世界を引きつけるのかというと、きっとそれだけではないでしょう。また、歩きたくなる空間は、世界に共通して、今、あちこちで広がっているのでしょうけれども、札幌ならではの世界を引きつけるという切り口が薄まっており、あまり見えてきていないという気がしています。

雪が降って、これだけの人口が住んでいるというところが持つ魅力など、もう少し明確な引きつけ方を意識した私たちの取り組むことが挙げられると美しいのではないかなと思って見ていました。

○高野部会長 まず、1点目は、地上と地下の連携といたしますか、これからはカバードウォークみたいに空中もあるのかもしれませんが、そういうことをネットワークとして考えていくような思想をどこかで持つべきだというお話でありました。

それから、2点目は、バリアフリー等については、単に計画を立てるだけではなく、その計画への関与の仕方ですね。ここで言うと、「私たちが取り組むこと」という四角書きがあり、市民・企業と行政という枠がありますが、市民・企業などの中にいろいろな人たちが関与していくという書き方を盛り込むべきではないかというご意見がありました。

3点目は、基本目標19で都心や高次機能交流拠点というように属性別に書いてあるのだけれども、これが表題の「世界を引きつける魅力と活力あふれるまち」にぴたっと納得するようなことになっていないのではないかということだと思います。

事務局からいかがですか。

○事務局（本山企画課長） まず、地上と地下の連携についてです。

今はなかなか表現し切れていないところがあると思っております。確かに、都心でもいろいろな開発が進んでおり、地下との接続はどうするのだということはありませんし、地下のネットワークについても課題があることは認識しています。

今のところ、これからどうしていくかは検討段階ですが、大きな課題として、これから検討を進めていきたいと思っております。

次に、プロセスの件についてです。

基本目標19の市民・企業などの1と2の「目指す姿」の中に「まちづくりに関わる計画策定等への積極的な参加」という表現があります。そういう要素も入れているのですが、岡本委員がおっしゃるように、もうちょっと具体的な表現が必要だと受け止めております。

次に、世界を引きつける札幌ならではのということについてです。

戦略ビジョンのビジョン編ができたとき、札幌の長所や特性をいろいろなところで表現していく中で、例えば、先ほどご指摘があったように、雪が5メートル降ります、豊かな自然がすぐそばにありますということを伝えていきたいと思っておりますが、そこでその表現と「私たちが取り組むこと」がうまくつながるように工夫できればなと思っております。

○高野部会長 岡本委員、いかがですか。

○岡本委員 僕の伝え方が拙くて大変申し訳ありませんでした。工夫してほしいですし、今の基本目標19の1から4の流れだと、どうしても世界を引きつけるという言葉が独り歩きしてしまっているような気がするので、整合を取った中身になるといいかなと思います。よろしくお願いします。

○高野部会長 ほかにいかがでしょうか。

○山中委員 今回の岡本委員の意見に賛同します。確かに、「私たちが取り組むこと」で計画段階からインクルーシブにいろいろな人に関わってもらおうということが書かれていますが、これはもっと上位にあってもいいことだと思っていて、目指す姿に、そういうまちづくりをする、つまり、「策定段階から全ての人に関わってもらおう」と書いてもいいと思います。岡本委員が先ほど国立競技場と言ったように、「策定段階から全ての人に関わってもらおう」ことは世界のスタンダード、世界の流れです。こういうプロセスを取るまちだから世界を引きつける魅力という言い方ができるわけです。このプロセス自体が「世界の人々が住みたいまちになる、企業も来たくなる」という、ちょっと強引に思うかもしれませんが、今の世の中の流れを踏まえると、そう言ってよいと思います。

2点目ですが、世代間交流みたいなものは、多分、他の分野「生活・暮らし」で言っていると思うのですが、ここでは、ハードウェアや箱物としても、世代間交流に適した形になっていないといけないよね、ということで、連携の視点をこちらでもかなり入れたらいいと思います。

私が最初に、都市空間の基本目標を読んだときには、住む人が見えてこなかったのです。先ほどの基本目標16でもそれほど見えなかったのですが、そこに住んでいる人、利用している人が分かるような視点でまちをつくっていきますということが見えてきません。策定のところと同じように、多世代や世代間ということもあまり見えないなと思いました。

3点目は、先ほどの話に戻るのですけれども、全ての基本計画が結びついていると思いますので、それらの目標間の関係について説明する記述を、別章などの形で、この目標とこの目標はこういう関係性があるという説明をした方がいいと思います。

今回は部会に分かれ、部会毎に揉んでいるのですけれども、部会を越えたところはどうしても薄くなってしまうので、みんなが集まった全体会場でいいと思いますが、全体会場でそういう関係性の書き方を検討されるといいと思います。

これは、SDGsの17の目標でもよく言われていることです。最初はSDGsの一つ一つの目標をよく見ていくことに注目が集まっていたのですけれども、世界の流れは、目標間のコベネフィット（co-benefit）、シナジー（synergy）と言うのですが、ある目標をやればこちらの目標にも影響があるよ、いい効果があるよというものがあるのです。それと同時に、トレードオフ（trade-off）と言うのは、こちらの目標をやり過ぎてしまうと、ほかの目標が悪くなってしまいうということ。今の世界の流れは、17の目標を個々に議論するということが行われなくなっています。おなじようなことが当てはまります。それぞれの基本目標同士の「関係」について、こういうところに気をつけましょうという解説が戦略ビジョンに入るといいかなと思いました。

○高野部会長 大変貴重なアドバイスをいただきまして、ありがとうございました。

1点目は、インクルーシブといいますか、関り方については、手段ではなく、目標といいますか、上位概念にすべきではないかというご意見でした。2点目は、住む人といいますか、具体的な世代間や対象がもっと具体的に分かるようにというお話でした。3点目は、

すごく重要なテーマだと思いますが、目標間の関係性ですね。今、SDGsで取り組まれていることをアナロジーして、今回の目標についても、各論ではなく、関係性をどこかできちんと議論したり表明したりする必要があるということでした。これは、いたずらに線やグラフでやってしまうと、いっぱい線ができて終わりとなってしまいます。しかし、それもいかないわけですので、やはり、文章表現をすることになるのかもしれませんが、かなり工夫するところは大きいかもしれませんが、非常に重要なご指摘だと思います。

事務局としてはいかがですか。

○事務局（本山企画課長） まず、1点目についてです。

今回、ユニバーサル、ウェルネス、スマートという三つのまちづくりの重要概念があるのですが、ユニバーサルの中にインクルーシブ、包摂性という要素を取り入れようと思っています。

また、3点目にもつながるのですけれども、個別の目標を達成すれば全ていいというのではなく、全ての目標が相互にリンクし、初めてまちづくり全体への効果があると我々も認識しております。そこをどう表現していくかですが、全体の章の前段で言うのか、それとも、個別の分野の中で表現していくのかについてはこれから検討したいと思います。

そして、住む人の対象が見えないということについてはご指摘のとおりだと考えておりますので、検討したいと思います。

さらに、前後して申し訳ないのですけれども、ユニバーサル、ウェルネス、スマートという三つの重要概念に関しては、章立てを別にして、共通する取組について整理をしようと思っています。それも含め、それぞれの個別分野があって、それがどうリンクしてシナジーを出していけるかですが、どこかの表現の中で整理をしたいと思います。

○高野部会長 山中委員、いかがですか。

○山中委員 一つだけ抜けてしまったのですが、世界を引きつけるというのは、プロセス重視が一番効果的なことだと思います。

○事務局（本山企画課長） それについても前向きに検討していきたいと思います。

○高野部会長 ありがとうございます。

それでは、牧野委員、お願いいたします。

○牧野委員 私が言いたかったことをうまく的確に岡本委員と山本委員が伝えてくださったので、感謝しております。

私からは、今、ユニバーサルやインクルージョンというお話をしたのですが、それ以外に日頃感じていることがあります。基本目標19や基本目標20、あるいは、基本目標18番もそうですけれども、全部の項目にデータ活用という言葉がたくさん出てきていますし、情報の話なども出ていますよね。でも、私たち障がいのある者にとって一番欲しいのが情報なのです。

例えば、先ほどの話のとおり、地下歩行空間から出ようと思ったけれども、直結ではなかったから、エレベータはどこにあるのかとぐるぐる探したりもします。しかし、情報が

あればそれを解決することができるわけです。だから、全部が全部整備されていなくても、情報によって助かることがたくさんあります。

また、宿泊設備などでは、今、バリアフリールームをつくるようになってきていますよね。でも、この前のパラリンピックをご覧になった方はお分かりのとおり、車椅子の人でも運動機能はそれぞれ違いまして、バリアフリールームではなくても泊まれる車椅子ユーザーはたくさんいるのです。しかし、どうも車椅子の障がい者、イコール、バリアフリールームでなければ駄目だという概念があるようなのです。

私たちとしては、そのお部屋のトイレに手すりがあるか、広さはどのくらいである、段差があるのかどうかなど、そういうお部屋の情報を発信していただくだけでよくて、決めつけではなく、私たちに選択肢を与えてくれるようにするという方法もあるのです。そうすると無駄なものをつくらなくてもいいのです。

それに、災害が起きたとき、震災のときもそうでしたが、情報がなくて一番困ったのは、やはり、障がいのある人たちです。ですから、ITの活用という影に、必要な人に必要な情報が届くような発信ということも織り込んでいただきたいなと感じています。

○高野部会長 これは、基本目標18の「快適で利用しやすく」という辺りに非常に関わってくるのだと思います。つまり、形だけではなく、どういう施設がどういうところにあり、どういうものになっているかという情報提供がすごく重要だということでした。

工夫して表現していただければと思いますが、いかがですか。

○事務局（本山企画課長） 今の委員のご指摘は、都市空間分野だけではなく、全ての分野に当てはまることだと認識しています。

市の情報発信の在り方について、ホームページ等で既にやっているところもあるのですが、実際に伝わっていないという課題も認識をしております。

発信の工夫については、市としても全庁的に取り組まなければいけない課題だと認識しておりますが、今回、都市空間の分野の中でどう表現していくかはこれから整理をしていきたいと思っております。

貴重なご意見をありがとうございました。

○高野部会長 札幌市では冬季オリンピックを招致しようということになっていますが、前段では、例えば、宿泊施設やいろいろなインフラについて相当な調査をされていると聞いております。そういうものも踏まえ、一般の利用者の方々にも情報提供をしていく、あるいは、容易に情報を入手できるような仕掛けをつくっていただければと思います。これは、ある意味、オリンピックのレガシーといいますか、パラリンピックのレガシーと言ったほうがいいのかもかもしれませんけれども、そういうことにもなるのだと思いますので、ぜひ取り組んでいただければと思います。

ほかにいかがですか。

○岡本委員 ちょっと心配だなと思っていることがあります。うまく伝わるかどうかは分からないですけれども、データをベースに活用するというお話自体はすごくよく分かるの

ですけれども、データは、結局、現状ベースではないですか。何かがあって、与えられている、あるいは、現状で存在している環境に対して人がどう流れているのか、こんな状況が成立しているのというものしかそろわないと思うのです。

もちろん、データを下敷きにしながら判断することはとても大切ですが、目標があって、それをデータで検証するためにデータを使う、そうした側面が都市計画としてはすごく重要だと思うのです。今はこうだから、推計でこうなるでしょうではなく、こういうまちにしたいと考え、それが実現した後に目指した姿の達成を説明できる数字になっているかどうかを確かめるという使い方も一方では必要だということです。

これをどう書いたらいいのかは分からないですが、現状とビジョンの両方をしっかり見た形での表現をしてほしいと思いました。

○高野部会長 今の岡本委員のご指摘は非常に重要だと思います。私なりに解釈すると、ある意味、帰納的なアプローチだけではなく、演繹的なアプローチとしてもデータを使っていくべきだ、そういう発想で取り組んでいくという思想をどこかで押さえておくということですね。

○事務局（本山企画課長） ビジョンの中には、行財政運営の在り方という章もありますので、その中でデータを使ったそうした検証についても書けるように検討したいと思います。

○高野部会長 ほかにいかがですか。

（「なし」と発言する者あり）

○高野部会長 もしなければ、私から幾つかよろしいですか。

1点目は、今の資料の最後についていた都市空間イメージ図、都市空間の種別の定義についてです。

都心から始まって、一般住宅地や市街地の外ということで、市街地の外というのは分かりやすいと思うのですが、郊外住宅地と一般住宅地の違い、あるいは、複合型高度利用市街地はどこからどこまでなのかはこの表現だけでは分かったようで分からないのです。市民の方々が自分の住んでいるところがどこに当てはまるのだろうかと考えたことはないのでしょうか、あまりぴったりとやる必要はないと思うのですが、付録で何かをつけるなど、もう少し分かりやすい工夫をしていただかないと意味が分かりにくいという印象を持ちました。

2点目は、基本目標18の四つ目の「快適で利用しやすく、環境にもやさしい」というところについてです。

札幌の弱みにもつながることとして、災害のところでは雪害に対するとあるのですが、雪害までいなくても、今日はつるつる路面が発生していたので、渋滞がすごく多く出てしまう、非常に多くの人転倒してけがをしてしまう、あるいは、バスが遅れてしまうなど、先ほどレジリエンスという話が出ましたが、特に冬季の気象に関わるレジリエンスもすごく重要だと思うのです。全ての人にという話がありましたけれども、

全てのときにおいてということも盛り込んでいただきたいなと思いました。

3点目は、基本目標20についてです。

これはインフラをメインにしている維持・更新ですけれども、市民・企業などという表です。行政のところは理解できるのですけれども、市民や企業がインフラの維持・更新にどのような関与をしていくかについて、ここでは結構埋まっています、「計画的かつ効率的な維持・保全・更新等」とも書いてあるのですけれども、本当に市民がそれをやるのでしょうか。また、企業についても、行政からの委託の場合、それは行政の代わりにやっているわけですから、ここには入ってこないのだと思うのです。

なお、維持・管理については、最近、行政だけでは手が回らないので、例えば、宅配便業者の人たちに道路の傷んでいるところを教えてもらって、それを維持・更新データに組み込んでいくという取組も実際にやってきていますが、左の枠の中に何を書き込むかについてはもう少し考えていただかないといけないと思いますし、本当にこんなことまで市民がやるのかというようなものも今は書いてあるような気がするのです。

企業についても委託されてやるものは企業の役割ではないと思うので、その辺の区別もした上でご検討をいただきたいなと思います。

○事務局（本山企画課長） 都市空間の種別の定義に関しましては、もうちょっと分かりやすい表現に変えたいと思います。

次に、基本目標18の「目指す姿」の4の全てのときにおいてということについてですが、これも先ほどの三つの重要概念の中で雪というテーマでも横断的に取り組んでいく課題として捉えていますので、その中で整理をしていければと思っています。

最後の市民・企業などのインフラ、建築物というところについてです。

民間の建築物も含まれるという想定で書いているのですけれども、ご指摘のように、読んでいるときにこれはどういうことなのだろうという疑義が起こる可能性が非常に高いと認識しましたので、表現について改めて検討したいと思います。

○高野部会長 ほかにいかがですか。

○椎野委員 これまでのご議論と大分違う話になってしまうと思うのですけれども、基本目標18についてです。

先ほど高野部会長からご指摘された雪についてで、むしろ、寒冷地なのだというお話がございました。また、岡本委員からの前回のご指摘として、景観について入れたほうがいいのではないかということがあり、基本目標18の「目指す姿」の1に入れていただいています。

積雪寒冷地というのは、先ほど全体に関わる横断的な共通するものだというお話がございまして、それはおっしゃるとおりだと思うのですけれども、基本目標が1から20まである中、目標として掲げているのは基本目標13のウィンタースポーツシティのところだけです。

私たち住み手にとって雪は非常に厄介なものといえますか、雪かきが大変だ、除雪をど

うするのかということは毎年議論になるのですけれども、外から来る方から見るとすごく魅力的なものですよね。また、景観で言うと、四季折々の変化に富む景観、雪がたくさん降って冬の景観を演出するというのは、札幌の独自性といいますか、非常に時期的な特異性であり、魅力であり、唯一性という側面もあるのかなと思います。

そういう意味では、基本目標18に「良好な景観の形成」と書かれていますけれども、もう少し踏み込んで、地域性といいますか、札幌らしい景観ということから、先ほど申し上げたような四季折々の変化に富んだ景観、積雪寒冷地らしい景観、そういう文言が適正かどうかは分かりませんが、そういうものが札幌の地域性であり、魅力であるということを入れていただければと思います。

これはほかのところではなかなか盛り込みにくいかと思いますし、まちとしてそういう景観であるということは都市空間分野のところでもPRしていただいたほうがいいかなと思います。基本目標から直結しているものではないかもしれませんが、それをどこかに項目として入れていただいたほうがいいのかなということです。

○高野部会長 椎野委員、基本目標19に入れたらどうですか。

○椎野委員 そうですね、おっしゃるとおりです。やはり、雪国の景観ですということを中心にPRいただいたほうが札幌の計画だという意義も高まるのかなと思いましたので、ご検討をいただければと思います。

○高野部会長 これも重要なご指摘だと思います。ある意味、札幌の弱みでもあるけれども、強みでもある雪と寒さについて、基本目標18か基本目標19に入れ込むということですが、いかがですか。

○事務局（本山企画課長）札幌らしさをもうちょっと出したほうがいいというのは、いろいろな分野でもご指摘を受けている点です。

前回の審議会では、都市像のところでも同じようなご指摘がありました。どこのまちでも通用するような表現が多くなっていたのですが、その中でも札幌らしさを出せるような工夫をしたいと考えています。

なお、この件についても、どこでどう書くかについてはまた整理させていただければと思います。

○高野部会長 特に、基本目標19の都心なんかだと、雪まつりをはじめ、ホワイトイルミネーションなど、既に世界を相当引きつけていると思いますので、それをさらにブラッシュアップすることも意味があるのではないかと思います。

いろいろなご意見をいただいているところですが、時間はもう少しございます。先ほどの環境のところでも結構ですし、環境と都市空間分野以外でも結構ですが、いかがでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○高野部会長 いろいろな段階でまたご意見をいただくことになると思いますが、今日のところはこの辺でよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○高野部会長 ありがとうございます。

それでは、審議は以上とさせていただきます。

進行を事務局にお返ししたいと思います。

3. 閉 会

○事務局（浅村政策企画部長） 本日は、様々な視点から非常に貴重な意見をたくさんいただきまして、ありがとうございます。

環境と都市空間の分野というのは、我々も予想していましたが、非常に多岐にわたっていて、ほかの目標や施策の方向性と複雑に結びついていることから、非常に高い見地からの表現といますか、方向づけが必要になってくるのだなと思いました。たくさんご意見をいただきましたけれども、ご指摘いただいたことをどこで整理していくかについては少しお時間をいただければと思います。

また、今はビジョン編の検討をしていますけれども、これからは戦略編ということで、より具体的な施策にイメージされるようなことにもつながっていきます。今日は、そういったことも含めてご指摘をいただけたと思っていますが、書き分けといますか、整理の奥行き感も含め、ご提示して、さらに深めていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

今日は、ありがとうございます。

それでは、次回の会議についての連絡をいたします。

○事務局（本山企画課長） 次回の会議ですが、第3回目の審議会を11月頃に予定しております。日程調整については、委託業者であるノーザンクロスを通じ、後日、改めて連絡をさせていただきます。

なお、次回の議題については、皆様からのご意見を踏まえて再検討した都市像と基本目標についてご議論をいただきたいと考えております。詳細については改めてご案内をさせていただきます。

○高野部会長 それでは、これで会議を終了させていただきます。

夜分遅くにどうもありがとうございました。

以 上